

STOP! the DV

女性に対する暴力をなくす運動
(11/12～25)

※DV (ドメスティック・バイオレンス)=夫または妻・恋人からの暴力

しかし、DVが原因といえる痛ましい事件は絶えず、9月には県内でも悲しい事件が起きてしまいました。

DVは身体だけでなく心にも深い傷を与えます

DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)が制定されて10年になります。

この間、DVは犯罪となる行為を含む「重大な人権侵害」であるという理解も深まってきました。

DVとは、配偶者(夫または妻)や恋人など、親密な関係にある相手からの暴力をいいます。中でも、男性から女性へ(夫から妻へ、彼から彼女へ)というケースが最も一般的です。DVは大切に思う相手から、安全であるはずの日常の中で与えられる恐怖や緊張です。このため、被害はケガなど身体的な影響にとどまらず、心にも深いダメージを残します。

また、子どもにもDVを目撃させることは、子どもの心を傷つける行為であり、精神的虐待です。これは、児童虐待防止法にも記されています。

暴力がエスカレートして、あるいはDVを受けている人がこれ以上耐えられなくなつて、「殺人」という結果を招くこともあります。

「DV」と「夫婦げんか」の違い

DVと夫婦げんかの一番大きな違いは、お互いが対等な立場であるかどうかです。

周りから見ると、DVもただの夫婦げんかにとられがちですが、対等な立場でやりあう夫婦げんかに対して、DVは、いつも同じ人が優利な立場で一方的に相手を責める関係にあります。

経済力や体力、社会や家庭内での立場など、二人の間に力の差がある中で、力を持つ側が相手に力を持つことを許さず(「支配」)、相手の行動や考えさえも自分の思い通りにしようとする(「コントロール」)DVは、とても不平等な関係にあるといえます。

逃げられない被害者

では、DVを受けている人はなぜ逃げないのでしょうか。

DVをする人は、暴力の後に謝罪や贈物をしたり、「お前がいなくていいけない」と言ったりするなど、見せかけともいえる「優しさ」や「弱さ」を相手に見せます。

これが、「支配」と「コントロール」の関係を修復・強化する重要な要素となつていきます。DVを受けている人は、「もう暴力を振るわなくなるのでは」「暴力を振るわないときが本当の姿」という期待を抱き、逃げられない原因のひとつになつていきます。

また、逃げた後の経済的自立が困難であることも、その原因に挙げられます。

ご相談ください

市は7月から、女性相談員を設置して、DVなどの相談をお受けしています。

いくら夫婦や恋人であつても、どんな理由があつても、暴力や暴言は許されません。

もし、相手との関係をつらいと感じているなら、どうぞ「ひとり」で悩まないで、ご相談ください。ご家族や友人からのご相談もお受けします。

DVにはさまざまな形態があります

身体への暴力以外にも、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力など、DVにはさまざまな形態があります。

身体的暴力以外の暴力は、加害者も被害者もDVであると認識しにくく、被害がより深刻化する可能性があります。

身体的暴力

(例)殴る、蹴る、つねる、首を絞める、物を投げつける・叩く、刃物を突きつける、殴るふりをして脅す、髪を引っ張る、熱湯や水をかける など

精神的暴力

(例)無視、人格を否定する、常に非難・批判する、暴言をはく、交友関係や電話を細かく監視する、外出を制限する、大切なものを壊す など

性的暴力

(例)性的行為の強要、避妊に協力しない、見たくないポルノビデオやポルノ雑誌を見せる、中絶の強要 など

経済的暴力

(例)生活費を入れない、借金を重ねる、金銭的な自由を与えない、相手だけに仕事をさせる、させない など

相談・問い合わせ

女性児童課
男女共同参画係
☎0824-73-1243